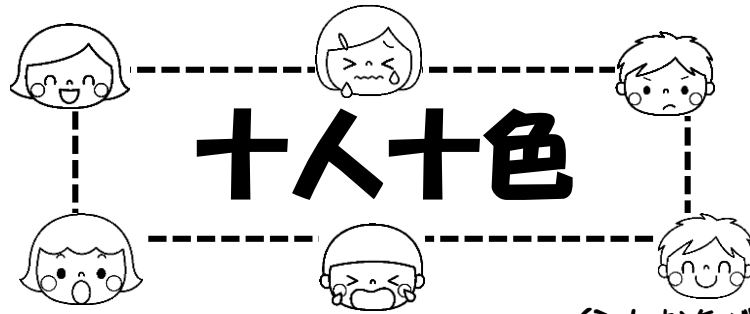


# 12月



2020, 11, 30

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO17

(みんなちがってみんないい!!)

## \*動物と暮らす

9:00 になったら、5組は、早出の職員と日課である、動物のお世話をします。現在、アヒル、にわとり、ウサギのお世話をしてくれます。長靴を履いて、ほうきや熊手を持ってそれぞれの小屋に入っていきます。

最初は動物のお世話は職員がやっていて、子ども達は遠巻きで見ているだけでした。正直、小屋の中は動物たちのふんや食べ残しがあったりして、大人でも負担に思う人がいても仕方がない・・・と思います。しかし、9月にヤギのユキちゃんが亡くなったのをきっかけに、子ども達に任せてみようと考えました。担任は子ども達に丁寧に世話の仕方を教えてくれました。3か月が過ぎ、思っていた以上に子ども達は『飼育』という事に使命感を感じ、積極的に、しかも楽しんでお世話をしてくれているのです。動物たちと暮らすという事は、『可愛い』『癒される』と言った事ばかりではなく『汚い』『怖い』『めんどうだ』という事もあるという事を自然に学んでいるのだと感じました。

と、同時に自分たちで役割分担をしっかりと『〇〇ちゃんは餌をやってね。僕は水を汲んでくるから!』と大人が言わなくても黙々とやっています。その姿に、感動すら覚えます。水を入れる容器も、すみからすみまできれいに洗い、アヒルハウスの床のふんをきれいに水で流し、ブラシでこすり・・・作業が全部終わって、それぞれの遊びに戻っていく子ども達の姿を見ながら、涙が出てきそうです。すごい!の一言です。

子どもの生活の中に動物がいることは、いろんな面でも良い事だと感じています。教育的な面、情操的な面。子ども達は動物と関わることでいろんなことを学んでいます。

特に『命の大切さ』はヤギのユキちゃんが教えてくれました。2~3時間までは元気にしていたユキちゃんを、ちょっとした油断で死なせてしまったことは、今でも深く心にのしかかってくることがあります。大人も子どもも泣いてユキちゃんを送ったあの日。動物を飼うことの難しさと、責任、そして命の大切さを教えてくれました。

ユキちゃんが亡くなって3か月・・・少しずつ気持ちも落ち着いてきて、『またいつか、新しいユキちゃんが来てくれたらいいなあ・・・』と思っているところです。

亀の『かめやまさところさん』は冬眠をしなくてはならないので、先月、担任の家の近くにある大きな池に返してあげました。亀の習性を話し、納得した上で自然に返すことを決めました。

先日、園に訪問して下さった方に『アヒルはシロちゃんとクロちゃんなんだよ』『優しく見るんだよ』『ウサギのみみちゃんとりぼんちゃんは追いかけたらだめなんだよ!』と話をしている姿がありました。



動物と一緒に暮らす環境があって本当に良かったと思います。

子ども達がとても優しくなりました。

5組が卒園するまでには、この日課を4組が引き継ぐこととなります。長靴を履けることを楽しみにしている4組です。今は5組のすることをうらやましそうに、フェンス越しに見ています。

今日も、まったりと楽しい1日が過ぎていきます。